

防衛省・辺野古沖で海底ボーリング調査再開 糾弾!

問答無用の安倍暴力政権をゆるすな!

『辺野古基地建設を許さない』

3・23 首相官邸前抗議行動』

日時:3月23日(月)18:30～ 場所:首相官邸前

安倍政権の暴力的性格は益々激しく、露骨になっている。3月12日(木)、沖縄防衛局は、突然、辺野古沖の海底ボーリング調査を再開した。沖縄の人々は名護市長選、沖縄知事選、衆議院選挙とあらゆる民意を表明することができる機会を捉えて「沖縄に新基地はいらない!」、「辺野古の海を壊すな!」と意思表示してきた。そして、政府の暴力的な建設強行に対して非暴力で阻止活動を行ってきた。

安倍政権はこうした沖縄の人々の思いに問答無用と無視をするばかりか、米軍警備員、海上保安官、警察機動隊を動員して暴力的に弾圧を繰り返してきた。海底では珊瑚を傷つけ、ジュゴンの薬場を破壊してきた。そして3月12日にはついに海底ボーリング調査の再開を強行したのである。決して許すことのない出来事である。

前号の fax 情報で全国一般東京労組・全労の庄子さんの現地派遣報告にあるように、沖縄の人々は全島から交互に名護に駆けつけ、キャンプシュワブ・ゲート前での座り込みを続けて機材の搬入を阻止するための闘い、辺野古の海ではゴムボートで抗議行動を展開し、激しい抗議行動を展開している。沖縄県・翁長知事も「許さない。あらゆる手法を駆使して基地をつくらせない」と憤りを表明している。

安倍首相は何故これほど沖縄の人々の声を無視し続けるのか。沖縄の人々々が首相の意を受け入れないからなのか。かつて、第二次戦争で唯一戦場となり、多くの人々々が犠牲となった沖縄、戦後の軍政下に放置され、日本復帰後も米軍基地を押しつけられてきた沖縄の人々への憤りを全く理解できないからなのか。

安倍首相は一貫して、自分の考えと違う人々を嘲笑し、侮蔑し、差別してきた首相である。憲法改悪と軍隊の再建を目的とする集まりである国民会議やネット右翼に迎合し、独裁的暴力的に政治を行うことにのみ集中してきたのである。そしてアメリカへの追随のために、沖縄を差し出し出しているのである。

私たちは安倍政権が暴力的独裁的に進める辺野古新基地建設を絶対阻止するため連続した闘いに参加し、沖縄に連帯しよう。

辺野古新基地建設問題を考える院内集会

～沖縄県民の民意を踏みにじるな～

- 内容: ※沖縄からの訴え
- ① 沖縄選出国会議員より
- ② 「島ぐるみ会議」より

※辺野古現地最新状況報告

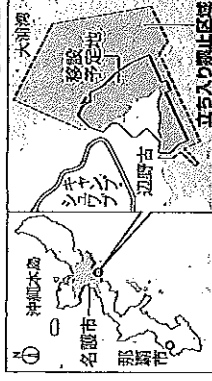
安次富 浩さん(へり基地反対協議会・共同代表)

日時: 3月17日(火) 18:30開会 (18:00通行証配布)

場所: 参議院議員会館・講堂

辺野古 海底調査を再開

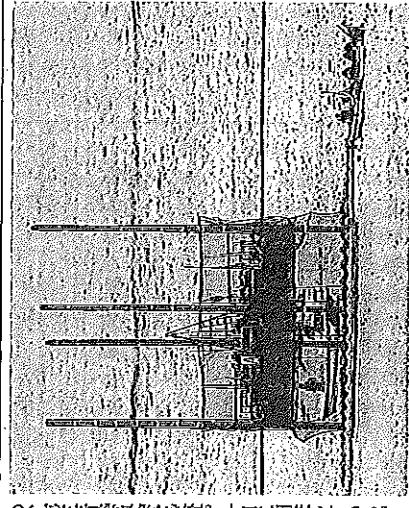
半年ぶり 沖縄知事「許せぬ」



米軍普天間飛行場(辺野古新基地)の国境を越え辺野古への移設に向け、沖縄防衛局は12日、昨年より半年間中断していた辺野古沖での海底ボーリング調査を再開した。中断期間中に行われた県知事選挙と衆議院選挙では総じて安倍政権が過半数を確保したが、そこで示された民意は無視された形で、反響から抗議の嵐が吹いた。

ボーリング調査は12日午前10時半ごろ始まった。午後、計10地点を掘削する。調査再開に向けは地盤調査をする。ボーリング調査は昨年8月に始まり、9月以降、台風の影響で中断。11月には知事選、12月には衆院選があり、防衛局は引き続き作業を再開した。調査再開による選挙への影響を避ける想いがあつたことに加え、作業を中断する予定がなくなったこと、調査再開の意向が示されたため、再びボーリング調査を再開した。

ボーリング調査は12日午前10時半ごろ始まった。午後、計10地点を掘削する。調査再開に向けは地盤調査をする。ボーリング調査は昨年8月に始まり、9月以降、台風の影響で中断。11月には知事選、12月には衆院選があり、防衛局は引き続き作業を再開した。調査再開による選挙への影響を避ける想いがあつたことに加え、作業を中断する予定がなくなったこと、調査再開の意向が示されたため、再びボーリング調査を再開した。



辺野古沖で再開されたボーリング調査=12日午前10時頃撮影、沖縄県名護市、上田第一撮影